

『学校改革』の中で見つけた自分の強さ

私は「学校改革に関わりたい」という思いを抱いて、この学校に入学しました。自分たちの手で学校を創っていく—そんな言葉に胸を躍らせながら、新しい環境へと飛び込みました。

しかし、現実決して甘いものではありませんでした。先輩方が歩んできた道とは異なる価値観の中で、私たち自身が新しい学校の形を模索していかなければならない日々でした。

先生方が学校改革に向けて本気で向き合い、時に闘うように取り組む姿を目の当たりにし、自分はすごい場所に來たのだと強く感じました。

そのような環境の中で、私は二年生から野球部の主将を任されました。チームを背負う立場になり、うまくいかないことや、仲間をまとめる難しさに直面することもありました。

それでも、主将として逃げるわけにはいきませんでした。どんなときも先頭に立ち、仲間とともに前へ進むこと。それが自分に与えられた役割だと思い、毎日全力で向き合ってきました。

厳しい環境の中でも、支えてくださる先生方や仲間がいたからこそ、ここまで歩んでくることができました。その経験の中で、過去の自分では想像もできなかったほどの成長を実感し、今、私は、次のステージに立とうとしています。

野球部の先生や担任の先生から、何度もかけていただいた言葉があります。「強さとは、折れないことではない。折れても、もう一度立ち上がることだ。」この言葉は、主将として戦い続ける私の心の支えとなりました。どんなに苦しい状況でも、立ち上がり続ける。その姿勢こそが、本当の強さなのだと教えていただきました。

これから私は新たなステージへ進みます。

主将として背負ってきた責任と、この学校で学んだ挑戦する姿勢を胸に、どんな困難にも全力で立ち向かっていきたいと思います。

そして、仲間とともに戦い抜いたこの時間を誇りに、これからも前に進み続けていきます。